

令和5年度 第1回江南市特別職報酬等審議会に関する議事録

- 日 時 令和5年11月27日(月) 午前10時～11時20分
- 場 所 防災センター 2階 防災セミナー室
- 出席者 出席委員10名
  - 石川 勇男 (江南市社会福祉協議会 会長)
  - 大前 温子 (大前温子行政書士事務所 行政書士)
  - 奥村 真也 (奥村真也税理士事務所 税理士)
  - 朱宮 哲明 (名古屋経済大学 准教授)
  - 土井 謙次 (名古屋芸術大学 准教授) ※会長
  - 松永 金次郎 (江南商工会議所 会頭) ※会長代理
  - 石川 和貴 (全森永労働組合中京支部 執行委員)
  - 山口 貴幸 (江南青年会議所 理事長)
  - 小林 弘子 (江南市国際交流協会 運営委員)
  - 中村 久美 (公募委員)

●傍聴者 なし

■市長あいさつ

特別職の報酬等について、現在、条例で定めている金額が妥当であるかどうか、審議をお願いします。

■会長選出

委員の互選により、会長に土井謙次氏を選出

■会長あいさつ

■会長代理の選出

会長の指名により、会長代理に松永金次郎氏を選出

■市長から会長へ諮問

■議事

1. 議題について

(会 長)	「議題(1)江南市特別職報酬等の額について」ですが、まず、事務局から本審議会の進行予定と資料の説明をお願いします。
(事務局)	< 説明 >
(会 長)	ただ今、事務局から説明がありましたが、しばらく時間を取って資料を読み取っていただいた後、質問や意見があれば承っていきたいと思います。

- (委員) 先日11月8日の中日新聞に稲沢市の特別職報酬等審議会の状況が出て、報酬を引き上げることが書いてありました。近隣市町も同じように審議会を開いていると思いますが、その状況はどうですか。
- (事務局) 現在把握できているところで、稲沢市、津島市、愛西市の状況は新聞等で確認をしています。稲沢市につきましては大体0.3%、金額にすると、市長、副市長が3千円、教育長、議長、副議長が2千円、議員が千円の引き上げという答申がされています。津島市、愛西市につきましても、金額につきましてもはまちまちですが、大体0.3%程度の引き上げというような答申が出ている状況です。
- (委員) 今の説明を聞いて江南市でもやっぱりこういう流れなのかなと。民間は頑張っておられるし、物価も上がり、時代の流れもあって、市町村としてもやっぱり最低限上げざるを得ない年だと思っています。民間でも賃金が上がらず、本当に苦しんでいる市民が多い中、率先して市町村が旗を振れないという気持ちもありますが、だからこそ上げないといけないのかなと思います。
- (委員) 日経平均株価も上がっているし、上場企業は総じて利益が出ています。国としても賃上げの方向にはいるんですけども、中小企業を見ると決して業績が良くなっているという感覚はないです。恐らく市民の方は中小企業の方のほうが多いと思いますので、その人から見たときに、国の方向や世間の風潮から上げていくというのは、一般市民が見たときに理解していただけるのかと考えると、正直難しいのかなと思いますので、上げるべきタイミングはもう少し先なのかなという気持ちがあります。
- (委員) まずは財政力指数を重視していただいて、江南市は県下37市中、32位ということでお金がない。議員定数は22人から20人になったということで定数減だけが叫ばれていますけど、もともと欠員だったもので最近20人でずっと運営されていたんです。そこへ来て、定数を2人減らしたから報酬を上げることを市と交渉するとか、政務活動費を上げるとか、そういうことが新聞の記事に出ていました。それはないだろうと思いますが、そこは皆さんに判断していただきたいと思います。
- ただ、職員さんの給料は人事院勧告で上げて優秀な職員を取らないと市が良くなりません。あと、市長の給料は相応のレベルにあるが、副市長と教育長の給料は、財政力指数に対して高い。
- (委員) そこについては、江南市は地域手当を支払っていないので、地域手当を含む報酬月額で他市と比べれば妥当な線だと思います。
- (委員) 長らく報酬等の据え置きがなされていたということで、実質的

には減額だったのかなというふうに感じています。あと他の自治体や行政職の方、それから民間の給与と比較しても、そんなに高いという印象を持たなかったのですが、役職上での報酬はある程度確保されており、現状では据え置きが妥当だと思います。

議員さんについては、個人の活動が不透明で個人差が多い中、それに見合う活動は責任を持ってやっていただくということが必要ではないかと思います。市民の皆さんの心情を加味すると、アップということは現状、難しいところがあると思いました。

(委員) 2年前の審議会では非常に活発な会議が行われまして、現実的には無理なんですけど、能力別の報酬にできないかというような話も出ました。しかし、この2年間で江南市が見違えるように変わったかというところではない。本当に職員さんのモチベーションが上がるような議会であってほしいと私は常に望んでいます。

(委員) 政務活動費の関係が話題に出たが、今現状どうなのか、来年度以降どうなっていくのか。

(事務局) 最終的な予算はまだ決定していませんが、財政部局への要望としては現在の年間15万円を上回るような形でというのは聞いています。

(委員) そういう動きがあるとしたらやっぱり据え置きなのかなと思います。政府も月額3万円とか4万円とか上げたんだけど、国民からすると批判の方が多くて、大臣はそれを返上すると言っている。市も上げたいという時期でしょうけれども、皆さんの意見を聞いていますと、やっぱり据え置きになってしまうのかなと思います。

(委員) 前回は結局そういう議論で、色んなビジョンがあったんだろうけどコロナで進むことができない時勢でした。だから、報酬は据え置きで、次に頑張ってもらいましょうという結論だったと思います。江南市はどちらかというと成果を期待しながら、それに合わせてという報酬の考え方だと思うんですが、大変だったこの2年間に議員の定数が変わったかもしれませんが、結局はコロナの間に、こういうことを未来に企画したけどできていない、やったこともちゃんと完成してないということがまだたくさん残っていて、そんな中で評価するとなったら、かなり難しいと思います。ですから減額はしなくてもいいから、せめて報酬はこのままで応援してあげたいという気がします。

(委員) そもそもこの報酬を上げるとか下げるとかというのが、どういう理由でされるのかはすごく気になるところです。例えば民間ですと、業績であったり、物価指数、必要な人材確保というところが基本的には理由になると思うんですけど、平成10年と平成23年

で上がったり下がったりというのは、どういった理由でそうなったのか、過去の経緯が分からないので、私が論点を整理できていないところがあります。物価のことだけで言ったら上げるべきだと思うんですけど、市民の目線だったら、据え置きがいいのではないかと思います。

(事務局) 例えば、平成10年度の報酬引き上げの理由としましては、市の財政状況、県下の各市の給料の改定の状況、社会情勢等も踏まえた上で、この当時は、期末手当の支給割合の改正に伴い、前年度の審議会で答申された金額によって算出した年間支給額が減少してしまう状況になるという可能性があったため、その範囲内で報酬の引き上げを行っています。

(委員) 今の話ですと、周りの市町村とのバランスとか、その時の社会情勢ということでしたら、私は多少なりとも引き上げてもいいのではないのかなと感じます。

(会長) 他市で0.3%引き上げになったというのは、先ほど説明のあった資料4（令和5年給与勧告の骨子）4ページの「5級以上0.3%」という数字に基づいているのでしょうか。

(事務局) はい。1級というのが一番若い職員で、5級以上の職員や指定職については0.3%引き上げるということです。他市もこの部分を参考にされて引き上げがなされたものと考えております。

(会長) そういうことですね。据え置きと引き上げの両方の意見でとてもいいと思いますが、他にはいかがでしょうか。

(委員) 僕は今上げるべきでないと思います。タイミングが悪すぎると思います。日頃から職員さんは頑張っていただいているのも分かっていますし、本当に大変な仕事をされていると思うんですけど、物価が上がるだけでなく、インボイス制度も始まって生活が苦しいという個人事業主もたくさんいる中で、風当たりもきつくなると思いますので、タイミングが今ではないかなと、ただそれだけです。上げてもいいと思うんですけど、今は据え置いたほうがいいと思います。

(委員) 景気を良くするために最低賃金を上げると国は言っていますけど、真っ先に公務の方がやったという市民の皆様からのリアクションが良くないのではないかなというのがあり、時期は見るべきだと思います。ただ、本当は議員さんだっただけ若い議員さんも出てきて、2人や3人の子ども全員に教育を受けさせて、一生懸命やらなければいけないとなったら、この金額ではかなり無理があると思います。

- (委員) 気持ちは私も皆さんと同じで上げる必要はないと思っているんですが、例えば、中小企業がそんなに業績上がってない、でも賃金上げようという中で、中小企業の社長さんだつて、えいって思って社員の給料を上げないと上昇気流に乗れないと思います。江南市がここでちょっと上げてみると、活性剤というか物価対策のためですけど、たとえ500円、千円でも一律上げることで、そのことをどう受け止めていただけるか分かりませんが、わざわざ市民の間に波が起きる、そういう意味が一つあるだけでも、上げてみたらどうかと思います。
- (委員) 一市民としては苦しいものですから、私は現状維持でいいのではないかなと思います。
- (委員) 中小企業の何が大変かという労働基準法があるから、業績が悪くても給料を下げられないので、代表者が給料を下げていくしかない。だから、簡単に給料も上げられないし、業績が悪かったら身を切るというのはやっぱりその取締役になってくるわけで、その感覚からすると、タイミングをしっかりと計った方がいいのではないかなと思います。
- (委員) この審議の内容というのは、市民の皆さんには公表されていくのですか。
- (事務局) 審議内容につきましてはホームページ等で議事録を公表しますし、報酬額を改定する場合には条例の改正が必要となります。
- (委員) 先ほどの話の中で、特別職の金額を上げたら、市民の方からの風当たりが強くなるということで、それだけ活動もしっかりやらなきゃいけないという意識の向上に繋がればそれはそれでいいかなと思います。例えば、普通の一般社員だと、僕らはこのぐらいしかもらってないから、こんなものでいいんじゃないかというふうに考える社員がいないとは限らず、報酬が上がったのに何にも変わっていないのではないかというように見られることに対して、議員さんたちがしっかり今以上に、いろいろ政策をしていただくということに繋がれば、市にとってはいいことだなと思います。ただ、あくまでも個人的には据え置きが妥当かなと思います。
- (委員) 本当に今若い人が議員になってくださって、もっとみんなで頑張って突き上げて、そうしたら市長さんだつて頑張らなきゃいけない、そんなふうになってほしいと思っています。でも、ここで今報酬を上げようかという話になると、やっぱりリアクションとしてはなぜこの時期なのかとなりますので、もうちょっと時期を見たほうがいいのではないかなと思います。
- (委員) 僕も決して高額ではないなという印象があります。ただ、今の状

況からいくと、なかなか厳しいところがあるのかなと思います。

(会 長)

日頃、私は社会科で経済分野も教えていまして、今年も春闘の話とか、国の人事院勧告の話、それから県の人事委員会の話も教えていて、先ほどの質問で給料がどうやって決まるんですかという話もあったんですけど、民間の企業との格差がどうかという説明も割と最近したばかりです。本当に皆さんの気持ちも分かるんですけど、多分各市町 0.3%上げてくると思うので横並びにしたときに江南市は上げてないのかと、ちょっと恥ずかしいというか、子どもたちにどう説明しようかというのがあります。

国全体で上げようと言っていて、上が上げないとやっぱり下も上げられないというのがありますので、私は逆に上げるなら今じゃないかと思います。2年先はちょっと長い気がします。

(委 員)

資料5の2ページに財政力指数をまとめた表があって、先ほど財政力指数の説明があったと思うんですけど、豊田市ですと 1.32 ぐらい、飛島村は2を超えている、そういうような状況の中で江南市は県下 37 市中の 32 位です。それがこの数年間で少しでも上がってきているのかどうかという流れが見えてこないのですが、その辺りの状況は掴んでいますか。

(事務局)

もともと江南市の財政力指数は 0.8 ぐらいですとずっときていましたので、若干下がっているような状況です。

(委 員)

社会全体から言うと、引き上げるなら今かなということもありますが、「入りを量りて出づるを制す」という言葉があるように、まず収入を考えてから支出を考えるというのが原則だと思いますので、財政力のことを考えたら私自身は据え置きかなと思います。

(委 員)

税金を上げる努力をしてこなかったんだと思います。企業誘致の問題でも反対をする人がいてなかなか誘致ができない。いろんな団体から要望書を出しても、結果的には各部署も予算がないからできません、検討しますってずっと何十年もきているわけで、そこを打破していただきたいと市民としては思っています。

(委 員)

ただ、やっぱり一矢報いるつもりで今年、千円でも引き上げて、それでまた2年経てば変わるのではないのでしょうか。

(委 員)

すごく共感するところもありまして、今年の春闘でベースアップがあったのですが、今年の案を聞くと他の企業はベアがあるのに対してうちだけベアがないというのはありえないというような考え方で、収入や業績で一概に組合員のベアが決まるものではないということを感じています。果たして業績が良くなったら給料が上がっていくのかというと、これは他が上がらなければ上がっていかないんじゃないのかなということを感じていて、他に

対する影響を与えていくというところは、姿勢の一つとして私は個人的にすごく賛成です。

(委員) 今回、特別職ということですが、これは市長、副市長、教育長は引き上げるけど、議員さんは据え置きという判断もできるのでしょうか。

(事務局) そこは切り分けて考えていただいて、市長だけ上げるというのも可能ですし、議員だけ上げるというのも可能です。

(会長) 今日はどこまで結論を出しましょうか。

(事務局) まずは今日皆さんに意見を言っていただいて、次回の時にある程度形を示したいので、方向性まで示していただくとありがたいです。

(委員) 市長、副市長、教育長は常勤で、毎日、出勤されて仕事をされている。一方、議員さんはダブルワークも可能で、もちろん議会があるときだけの仕事ではなくて、それに付随してたくさん仕事があることは理解しているんですけど、その職務に対する報酬という観点で見ると、個人的な感想としては議員さんを上げるのは正直難しいかなと思います。一方、市長は、職員さんと同じように、少し上げてもいいかなというのを感じます。

(委員) 議員さんは30歳から80歳までいる中で、条例があって同じ額だから一番難しい。議員さんは月額45万円もらって、賞与もあるが、中小企業だと賞与は業績によって出ないところもある。そういうことを考えたら、議員さんは据え置きが妥当だと思います。

(会長) 本当にたくさんご意見をいただいて私も大変勉強になりました。これまでの議論を踏まえて、ご意見を1人ずつ言っていただいとということでもよろしいですか。

(委員) 私自身も非常に勉強になりましたし、再認識した部分もありますけど、やはり全体の流れをみて、私は据え置きが妥当と感じました。

(委員) 市民として審議会に参加して、いろいろあるけれども、それでも私はこの時期少しでも上げる、今年はその年だと思います。

(委員) もうしばらく議員さん方にも我慢していただいて、上げるのは先にしていただいて、今回は据え置きがいいと思います。

(委員) 個人的にはもう少し上げていきたいとは思いますが、市民感情を考えますと、据え置きが妥当というふうに考えました。

- (委員) 私は全体的に少し引き上げをする方がいいのではないか、いい影響があるのではないかというふうに考えていますので、若干の引き上げです。
- (委員) 据え置きです。
- (委員) 据え置きです。
- (委員) 据え置きです。
- (委員) 結論は据え置きです。2年に1回審議会をやりますけれども、やっぱり給料上げたいと思われる議会でないといけない。それが一番だと思います。
- (会長) 私は0.3%引き上げという結論です。  
それでは、ご質問も尽きたようですのでここで議論を一度締めたいと思います。  
続きまして、「議題（2）その他」に移ります。事務局から何かあればお願いします。
- (事務局) 次回第2回の会議でございますが、12月25日月曜日、午後で開催します。時間や場所につきましては、開催通知をもってご案内させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。
- (会長) これをもちまして本日の審議会を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

《第1回江南市特別職報酬等審議会終了》